

ガザ安保理決議 命を守る世界の意思だ

失われた多くの命を考えれば、遅すぎたと言わざるを得ない。それでも、国際社会が一歩踏み込んだ姿勢を打ち出したことを前向きにとらえたい。问题是、この意思を実現させられるかだ。

イスラエル軍の攻撃で人道危機が深まるパレスチナ自治区ガザについて、国連安全保障理事会は15日、「十分な日数」の戦闘休止などを求める決議を採択した。

イスラエルは米国と1日4時間の戦闘休止で合意しているが、それでは不十分だという国際社会の意思の表明だ。

何より、国連総会決議とは異なり、法的拘束力がある安保理の決議は重い。

10月7日にイスラエルとイスラム組織ハマスの戦闘が始まつて以来、この問題での安保理決議は初めてだ。これまで出された四つの決議案は、米団中が拒否権行使するな

どして採択されなかつた。

今回、決議案を提出したマ

ルタの国連大使は「戦争に引き裂かれたガザの子供たち、人質にされた子供たちの窮状に焦点をあてた」「彼らの苦しみに目をつぶるひまはない」と呼びかけた。

実際、軍事衝突の最大の犠牲者は子供たちだ。国連によると、1万1千人を超えたガザの死者のうち子供は4500人以上を占める。グテーレンス事務総長は「ガザは子供たちの墓場になりつつある」と危機感をあらわにした。

イスラエルを一貫して擁護してきた米国も拒否権行使せず、棄権した。国内外からの反応も考慮し、採択を容認したとみるべきだろう。

それでも、イスラエルは国連大使が「（決議は）無意味だ」と反発し、採択後もガザの病院での掃討作戦を続けていた。この事実をイスラエルは肝に銘じるべきだ。

理決議を無視する行為は許されない。

イスラエルはこれまでも安保理決議に従わずと占領地への入植を拡大してきた。戦闘休止も守られないようであれば、安保理はより堅固とした対応をとる必要がある。

中東から遠く離れた地域でもイスラエルへの視線は厳しさを増している。東南アジア諸国連合（ASEAN）の国防相会議は即時停戦を呼びかける議長声明を出した。中南米ではイスラエルとの断交や大使召還の動きが続く。

今回の決議は、ハマスが拉致した人質の即時解放も求めている。国際社会は自国の市民を守る権利まで認めていかなければいけない。自衛権行使と呼ぶにはあまりに過剰な攻撃で、多くの民間人が不当に命を奪われる理不尽に異議を唱えている。この事實をイスラエルは肝に銘じるべきだ。